

競馬がますます
楽しくなる

続 ファンにやさしい

馬学講座

第27回

ハクサンムーンの グルグル回る癖を読み解く

講師

楠瀬良さん

(公社)日本装束協会の
常務理事



案内人：辻谷秋人
text by Akihiro Tsujiya

ハクサンムーンはふだんから
厩舎の中でもグルグル回る

競走馬の中にはちょっと変わった癖を持つものが時折いるが、最近の代表格といえはハクサンムーンだろう。本馬場入場のときにグルグルと回転する姿は、ハクサンムーンが出走するレースの見所のひとつになっているほどだ。

この「グルグル回転する」のは旋回癖（まわりの癖）と呼ばれ、馬が見せる癖のひとつだが、同馬を管理する西園正都調教師によれば、ハクサンムーンはふだんから厩舎の中でもよく回っているのだそうだ。しかも1歳時に西園調教師が初めて育成場でハクサンムーンを見たときには、すでにこの癖はあったのだという。

西園調教師の見えるところ、ハクサンムーンが厩舎でグルグル回るのは人間にかまってももらいたくないからというので、厩舎に人が入ってくると回り出すようだ。競馬の本馬場入場時に回るようになったのは、デビュー後しばらくして、競馬を覚えるにつれてのことだという。しかも面白い

ことに、厩舎では右回りで回っているのだが、本馬場入場のときには左回りで回るのであるのだ。

なぜハクサンムーンは本馬場入場のときにグルグル回るのだろうか。そのあたりのことを馬博士・楠瀬良さんに伺って見た。

本馬場入場時の旋回は、
競馬に向かうための儀式!?

「旋回癖は馬の行動異常の中でも常同行動と呼ばれるもののひとつです。常同行動というのは、一定の動作が繰り返されるのですが、その目的や意味がはっきりしないもので、これを制御したり矯正したりするのは難しいのです」(楠瀬さん)

実際に西園調教師もハクサンムーンの旋回癖を直そうとかなり努力したらしいのだが、うまくいかなかったそうだ。

「厩舎での旋回は別にして、本馬場に入るときは旋回を考えてみると、もしかするとこのとき馬は強いストレスを感じているのかもしれない。ほかの馬が怖く

て、何頭もの馬と一緒に走るということがストレスになるといったようなことです。そこで、気持ちを競馬に向かわせるためにある種の儀式が必要になる。本馬場入場時にグルグル回るのは、ハクサンムーンにとって競馬に向かうためのひとつの儀式である可能性があります」

本馬場入場時の旋回は、ふだんの旋回癖とはちょっと別の意味合いがあつて、切り離して考えた方がいいのかもしれない。が、ハクサンムーンが怖がりなのはそれとおりで、ほかの馬が馬場にいるとハクサンムーンは入ろうとしないらしい。そのためふだんの調教でもコースに入る時間はいっばん遅くしているのだそうだ。

また、本馬場入場時にグルグル回ると落ち着くよう、その後のキャンターにもスムーズに入っていくとのこと。西園調教師によると、レースではまったく問題ないのだそうだ。



本馬場入場時の旋回は、強いストレスから気持ちを切り替える儀式的可能性も

それにしても面白いのが、本馬場入場時の旋回がふだんとは反対の左回りであること。これについては西園調教師も不思議がる。もしかすると、これがいつもの癖とは違う「儀式」であること、競馬に向かうためのスイッチを入れる行為であることと関係しているのかもしれない。では、そもそも(ハクサンムーンが本馬場入場時ではなく厩舎で見せているような)旋回癖とは何なのか、旋回癖以外にも含めて、馬の癖、常同行動について、次回で考えてみたい。